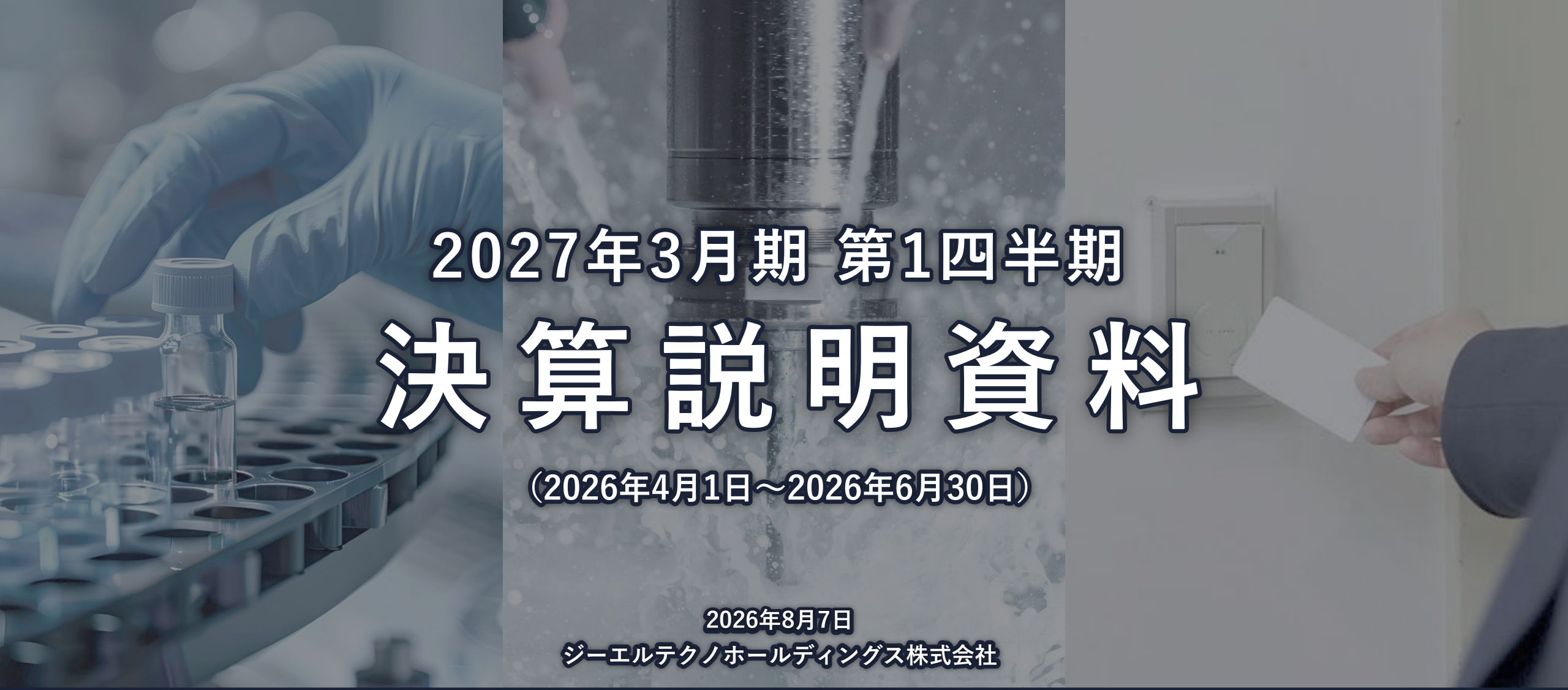


2027年3月期 第1四半期
決算説明資料

（2026年4月1日～2026年6月30日）

2026年8月7日
ジーエルテクノホールディングス株式会社

東証STD 255A

GLTECHNO HOLDINGS

01. エグゼクティブサマリー … P. 3

02. 決算概要（2027年3月期 第1四半期）

連結 … P. 6

セグメント別 … P. 8

03. 業績・配当予想（2027年3月期） … P. 24

04. APPENDIX … P. 31

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

01. エグゼクティブサマリー

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

2027年3月期 第1四半期

増収・増益

売上高

12,043 百万円

（前年同期比 ＋15.2%）

半導体事業および分析機器事業が売上を牽引し、前年同期比増収

営業利益

1,964 百万円

（前年同期比 ＋52.5%）

主に半導体事業による増収効果が寄与し、前年同期比増益

2027年3月期 業績予想及び配当予想

通期業績・配当予想に変更はなく、
前期比**増収・増益・増配**の見込み

売上高	営業利益	配当予想
50,000 百万円	7,740 百万円	126 円
（前期比 ＋6.0%）	（前期比 ＋8.8%）	（前期比 ＋3円）

TOPICS

半導体事業の生産棟を山形県に増設

～稼働開始に向け順調に進行～

- ✓ 火炎加工による高付加価値製品への対応力強化
- ✓ 投資総額 約**40**億円
- ✓ 完全稼働時の火炎加工生産能力は約**2**倍へ

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

分析機器事業

増収・増益

- ✓ PFASに関する水質検査の義務化などを背景に消耗品が売上を牽引し、増収
- ✓ 増収効果に加え、消耗品の売上比率が向上したことにより、増益

売上高

4,631 百万円

前年同期比 +8.4%

営業利益

405 百万円

前年同期比 +38.0%

半導体事業

増収・増益

- ✓ 豊富な受注残高と工場の高稼働率を背景に、増収
- ✓ 増収効果に加え、生産効率が向上したことにより営業利益率も改善し、増益

売上高

7,051 百万円

前年同期比 +22.5%

営業利益

1,586 百万円

前年同期比 +59.1%

自動認識事業

減収・減益

- ✓ 自社製品群は順調に推移したものの、OEM製品群の需要が伸び悩み、減収
- ✓ 売上高が低迷したことにより、営業損失を計上

売上高

359 百万円

前年同期比 ▲14.7%

営業利益

▲27 百万円

前年同期比 -

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

02. 決算概要（連結）

2027年3月期 第1四半期

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

増収・増益

- 売上高は、半導体事業の豊富な受注残高に基づく工場の高稼働が大きく寄与したことに加え、分析機器事業も堅調に推移し、前年同期比15.2%の増収
- 営業利益は、主力2事業の増収効果に加え、分析機器事業にて消耗品の販売が好調であったことや、半導体事業にて生産効率が向上したことから、前年同期比52.5%の増益

単位：百万円	2026年3月期1Q		2027年3月期1Q		前年同期比	
	実績	売上比率	実績	売上比率	増減率	増減額
売上高	10,454	-	12,043	-	＋15.2%	＋1,588
売上原価	6,949	66.5%	7,632	63.4%	＋9.8%	＋682
売上総利益	3,504	33.5%	4,410	36.6%	＋25.9%	＋906
販管費	2,216	21.2%	2,446	20.3%	＋10.4%	＋229
営業利益	1,288	12.3%	1,964	16.3%	＋52.5%	＋676
経常利益	1,349	12.9%	1,994	16.6%	＋47.8%	＋645
親会社株主に帰属する四半期純利益	948	9.1%	1,345	11.2%	＋41.8%	＋397

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

02. 決算概要（セグメント別）

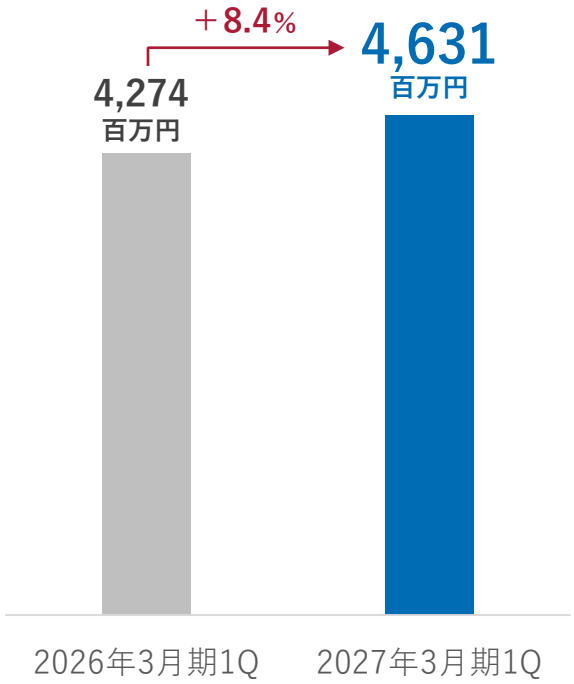
2027年3月期 第1四半期

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

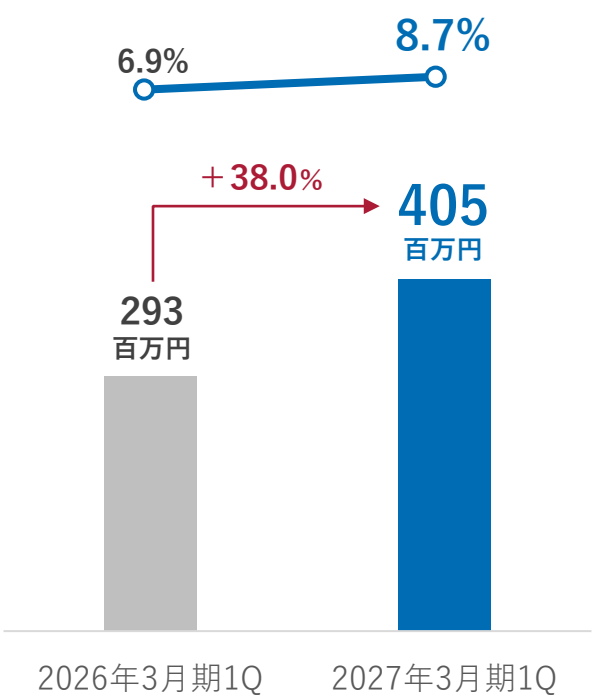
増収・増益

- 売上高は、PFASに関する水質検査の義務化などを背景に消耗品が全体を牽引し、前年同期比8.4%の増収
- 営業利益においては、増収効果に加え、消耗品の売上比率が向上したことにより、前年同期比38.0%の大幅な増益

売上高



営業利益（率）



要因・その他

国内　売上高比率 72.6%

装置類： **環境・食品分野向けが好調。**なかでも他社製の**質量分析計**や**水質分析用の固相抽出装置**を中心に堅調に推移。

消耗品： 液体クロマトグラフ用カラムに加え、**固相抽出カートリッジの販売が好調。**試料調製容器など**幅広い製品群で安定した売上を確保。**

海外　売上高比率 27.4%

- 前期第4四半期に**中東情勢懸念の先行受注が発生したがその反動による影響は限定的であり**、前年同期比増収。
- **新製品Inertsil Hybrid-C18**を中心とした液体クロマトグラフ用カラムや固相抽出カートリッジ、ガスクロマトグラフ関連の周辺機器等が好調。

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

消耗品の売上構成比の増加により売上総利益率が改善。
それに伴い、営業利益は前年同期比38.0%増の大幅な増益を達成

単位：百万円	2026年3月期1Q 実績	2026年3月期1Q 売上比率※1	2027年3月期1Q 実績	2027年3月期1Q 売上比率※1	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
売上高						
外部売上高※2	4,274	-	4,631	-	+8.4%	+357
内部売上高※3	-	-	-	-	-	-
計	4,274	-	4,631	-	+8.4%	+357
売上原価	2,533	59.3%	2,632	56.8%	+3.9%	+99
売上総利益	1,741	40.7%	1,999	43.2%	+14.8%	+257
販管費	1,447	33.9%	1,593	34.4%	+10.1%	+146
営業利益	293	6.9%	405	8.7%	+38.0%	+111

※1 合計の売上高に対する比率
※2 外部顧客への売上高
※3 セグメント間の内部取引高又は振替高

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

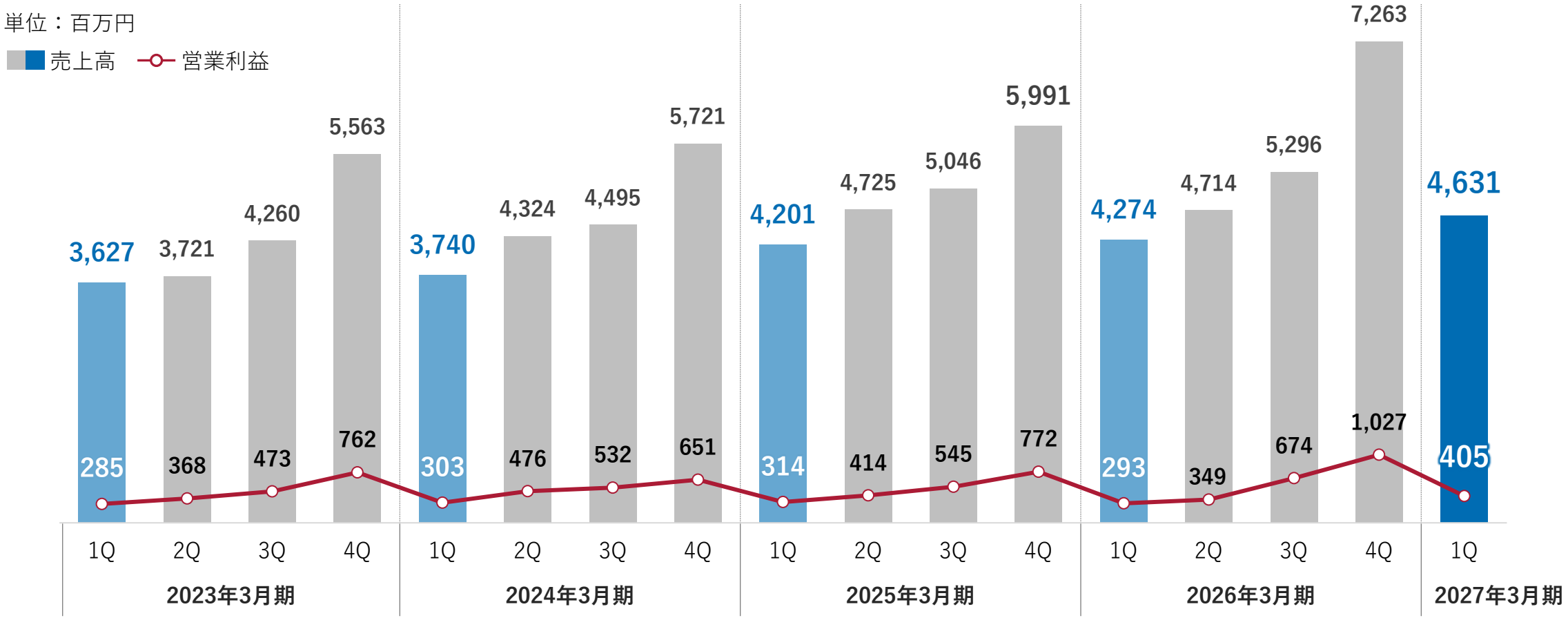
中東情勢懸念を受け、前期第4四半期に先行受注が発生したものの、その反動による影響は限定的であり、全ての地域にて前年同期比増収

単位：百万円	2026年3月期 1Q	2027年3月期 1Q	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額	2027年3月期 1Q 構成比
国内	3,197	3,360	+5.1%	+163	72.6%
海外	1,076	1,271	+18.0%	+194	27.4%
北米	115	185	+60.7%	+70	4.0%
中国	370	401	+8.2%	+30	8.7%
シンガポール	14	23	+61.5%	+8	0.5%
その他のアジア	303	323	+6.6%	+20	7.0%
その他の地域	273	337	+23.7%	+64	7.3%
合計（国内+海外）	4,274	4,631	+8.4%	+357	100.0%

※ 前連結会計年度において、「アジア」に含めておりました「中国」と「シンガポール」につきましては、金額的重要性が増したため、当連結会計年度から独立掲記しております。
※ この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の「アジア」に表示していた688百万円は、「中国」370百万円、「シンガポール」14百万円、「その他アジア」303百万円に組み替えております。

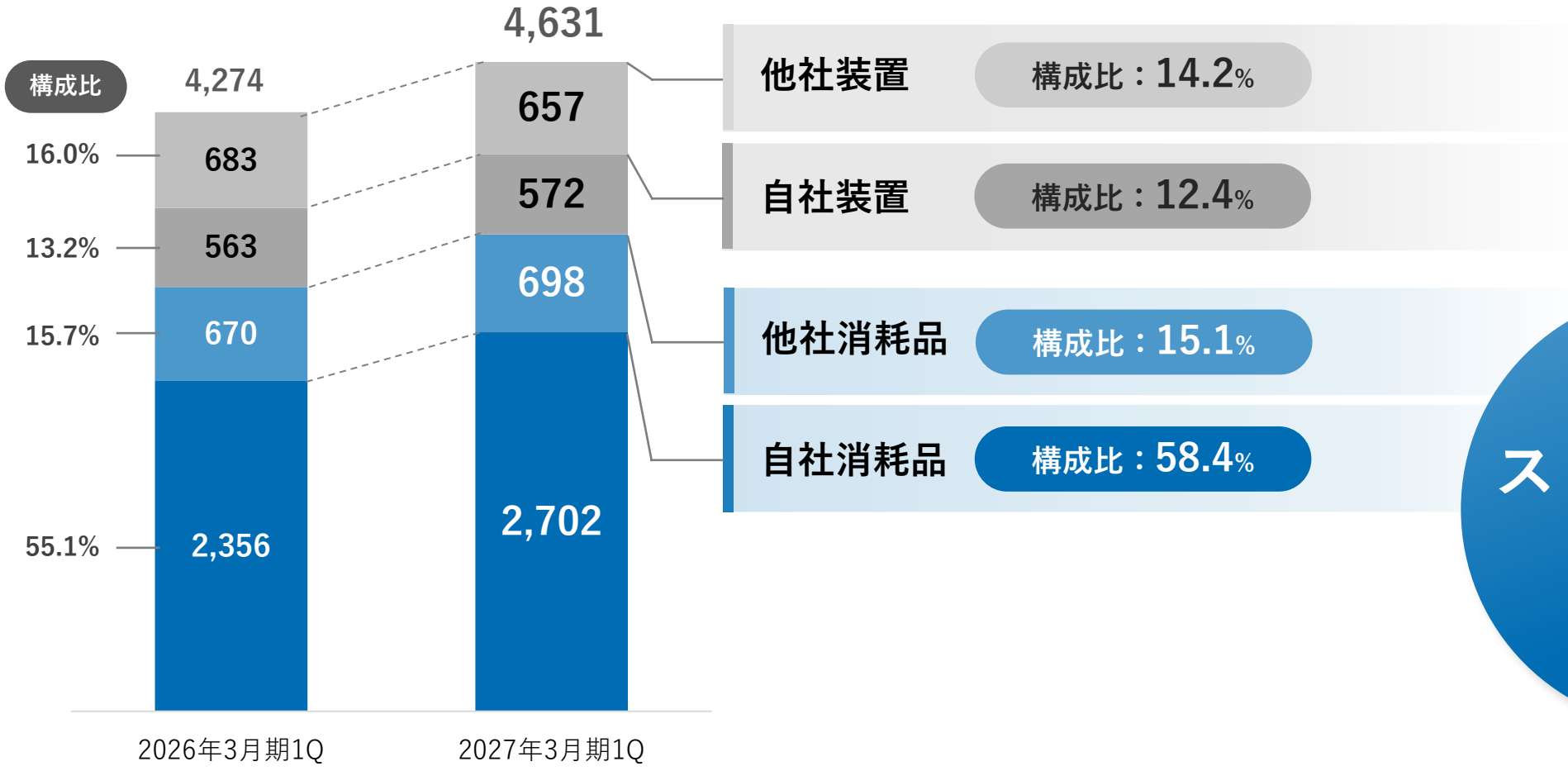
© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

当事業は売上計上タイミングが期末に偏重する季節性があるものの、当期の第1四半期は、消耗品の販売が好調に推移した関係で営業利益率は比較的高い水準



自社消耗品を中心とする安定的なストック収益が売上の約7割。
PFASに関する水質検査の義務化などを背景に当期は自社消耗品の構成比が伸長

単位：百万円

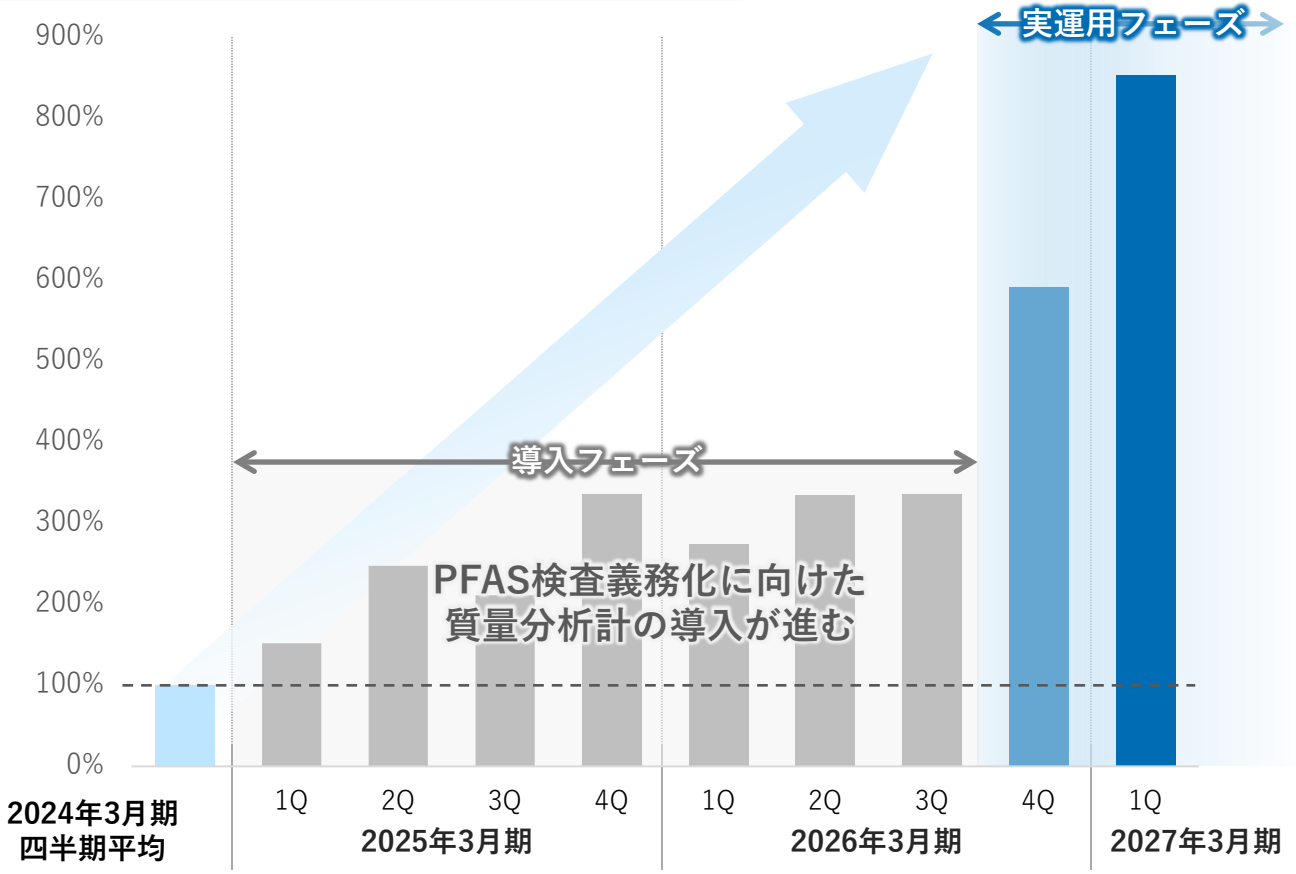


ストック収益
約7割

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

国内の水質基準に関する省令の一部改正及び水道法施行規則の一部改正等によるPFAS※検査の義務化に伴い、「固相抽出カートリッジ」をはじめとする消耗品の売上高が大幅伸長

PFAS分析用固相抽出カートリッジの売上高推移
（2024年3月期四半期平均比）



PFAS検査義務化に伴う
実運用開始により
消耗品売上が増加

固相カートリッジ

※PFAS…ペルフルオロアルキル化合物およびポリフルオロアルキル化合物の略称。
炭素とフッ素を含んだ有機フッ素化合物であり、難分解性、高蓄積性等の性質があるため、国内外で規制やリスク管理に関する取り組みが進められています。

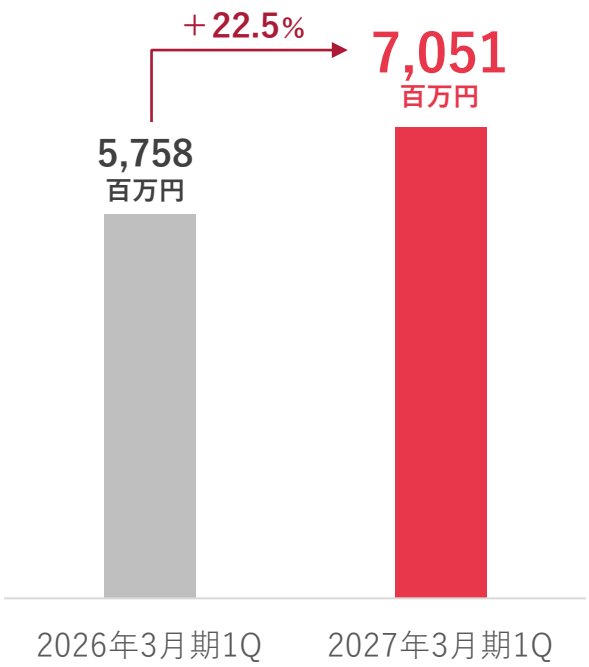
関連情報：2026年3月期 決算説明資料 P.47

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

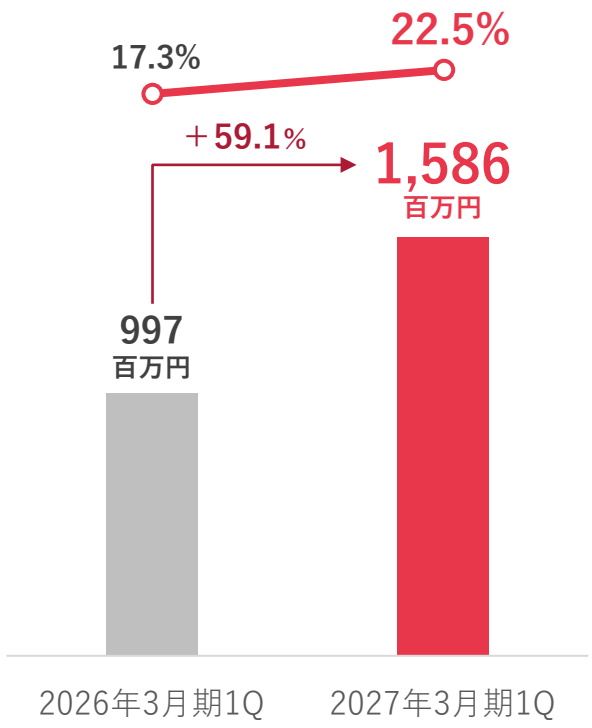
増収・増益

- 売上高は、豊富な受注残高と工場の高稼働率を背景に、前年同期比22.5%の増収
- 営業利益は、増収効果により前年同期比59.1%の増益。工場の高稼働に伴い生産効率が向上し、営業利益率も改善

売上高



営業利益（率）



要因・その他

＜直近の市場動向＞

- **AI向けデータセンターや生成AI関連製品の需要の拡大**を背景に、業界全体が堅調に推移。
- 一方、メモリー製品の需給逼迫や、中東情勢の緊迫化に伴う原材料調達リスクなど、先行きについては不確実性が残る。

＜今後の需要拡大に向けた対応＞

- **新規需要の掘り起こし**や、**高付加価値製品**の開発と拡販によるマーケットの拡大
- 国内外での**増産体制**構築のための準備

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

売上高の前年同期比22.5%増に加え、工場の高稼働により原価率が改善し、営業利益は前年同期比59.1%増の大幅増益

単位：百万円	2026年3月期1Q 実績	2026年3月期1Q 売上比率※1	2027年3月期1Q 実績	2027年3月期1Q 売上比率※1	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
売上高						
外部売上高※2	5,758	-	7,051	-	+22.5%	+1,293
内部売上高※3	0	-	0	-	▲64.7%	▲0
計	5,758	-	7,051	-	+22.5%	+1,293
売上原価	4,130	71.7%	4,773	67.7%	+15.6%	+643
売上総利益	1,628	28.3%	2,277	32.3%	+39.9%	+649
販管費	631	11.0%	691	9.8%	+9.6%	+60
営業利益	997	17.3%	1,586	22.5%	+59.1%	+589

※1 合計の売上高に対する比率
※2 外部顧客への売上高
※3 セグメント間の内部取引高又は振替高

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

国内・海外ともに増収、特にシンガポール向けの需要拡大が全体成長を牽引

単位：百万円

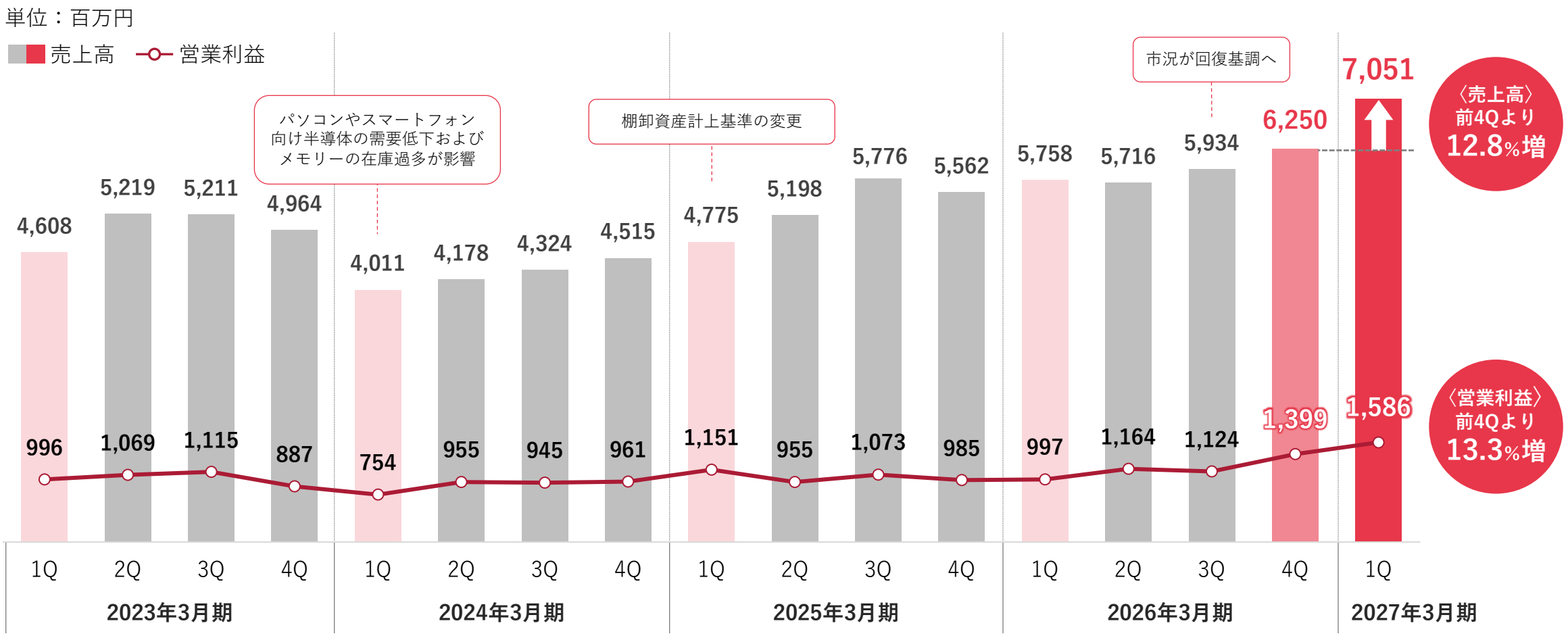
	2026年3月期 1Q	2027年3月期 1Q	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額	2027年3月期 1Q 構成比
国内	2,189	2,387	+9.0%	+197	33.9%
海外	3,569	4,664	+30.7%	+1,095	66.1%
北米	281	355	+26.1%	+73	5.0%
中国	949	896	▲5.6%	▲52	12.7%
シンガポール	1,717	2,783	+62.1%	+1,066	39.5%
その他のアジア	610	620	+1.6%	+9	8.8%
その他の地域	10	8	▲14.4%	▲1	0.1%
合計（国内+海外）	5,758	7,051	+22.5%	+1,293	100.0%

※ 前連結会計年度において、「アジア」に含めておりました「中国」と「シンガポール」につきましては、金額的重要性が増したため、当連結会計年度から独立掲記しております。
※ この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の「アジア」に表示していた3,277百万円は、「中国」949百万円、「シンガポール」1,717百万円、「その他アジア」610百万円に組み替えております。

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

四半期別売上高・営業利益推移

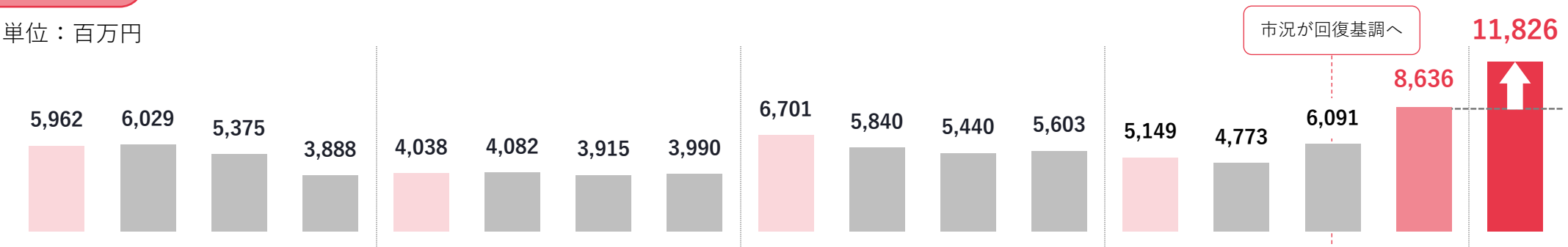
増収効果に加え、工場の高稼働により原価率が改善し、売上高・営業利益ともに過去最高額を更新。前期第4四半期と比較しても、売上高は12.8%増、営業利益は13.3%増と順調に拡大



業界全体として活況な状態が継続している関係で一部の顧客からは先行受注もあり、前期第4四半期と比較しても受注高・受注残高ともにさらに高い水準へ

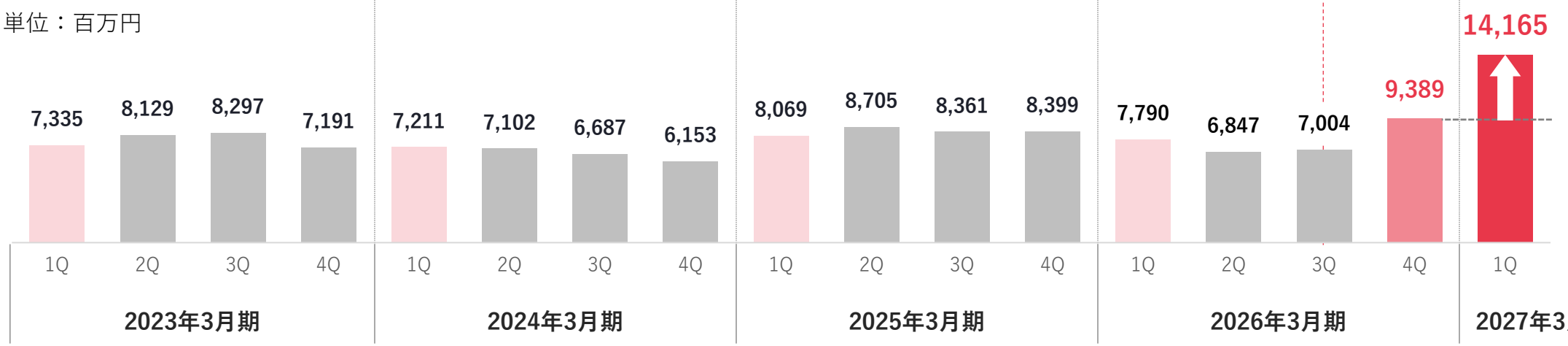
受注高

単位：百万円



受注残

単位：百万円



© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

高付加価値製品への対応力強化を目的とし、火炎加工のための建屋を山形県山形市の蔵王南工場内に増設。本年7月の建屋完成に伴い、順次設備を導入中

投　資　総　額	40億円
操業開始予定時期	2027年1月

完全稼働時に見込むことができる将来効果

- ✓ 火炎加工の**生産能力が約2倍へ**
- ✓ 火炎加工による**高付加価値製品の安定供給**
- ✓ 高付加価値製品の売上増による**利益率の向上**

概 要

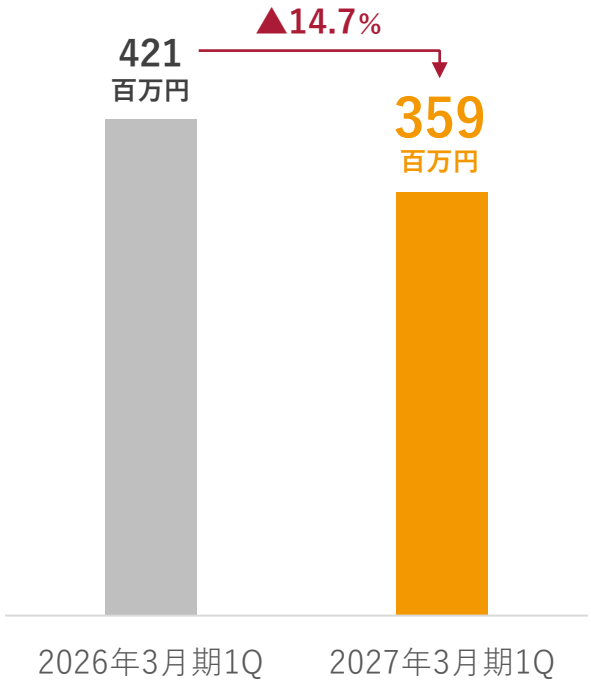
対象拠点	蔵王南工場（増設）	面　積	敷地 28,858㎡ 延床 3,400㎡
所 在 地	山形県山形市	主な用途	火炎加工製品の増産

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

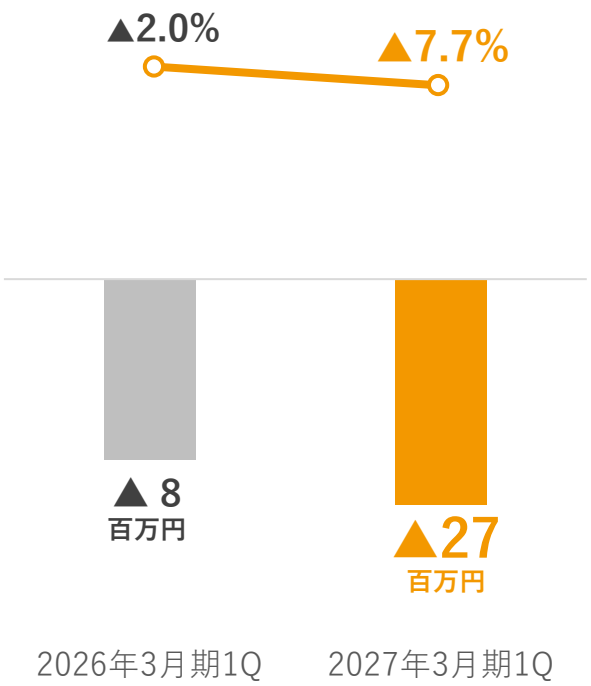
減収・減益

- 売上高は、自社製品群は順調に推移したものの、OEM製品群の需要が伸び悩み、前年同期比14.7%の減収
- 売上高が低迷したことを受け、営業損失を計上

売上高



営業利益（率）



要因・その他

＜製品分類別状況＞

- **機器組込製品/完成系製品**
  警備用端末や医療用装置向けの需要が堅調に推移。鉄道業界向け小型卓上リーダライタや重工業界向け入退室コントローラなどの販売が前年同期を上回る好調な推移。
- **自動認識用その他**
  入退室システム関連の施工案件は増加したものの、**住居関連施設向けタグの販売停滞などが売上に大きく影響。**

＜利益面について＞

- 売上高が低調なスタートとなったため、当期も第1四半期においては営業損失を計上。
- 今後の回復・拡大に向け、複数の機器組込製品の開発案件を推進。

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

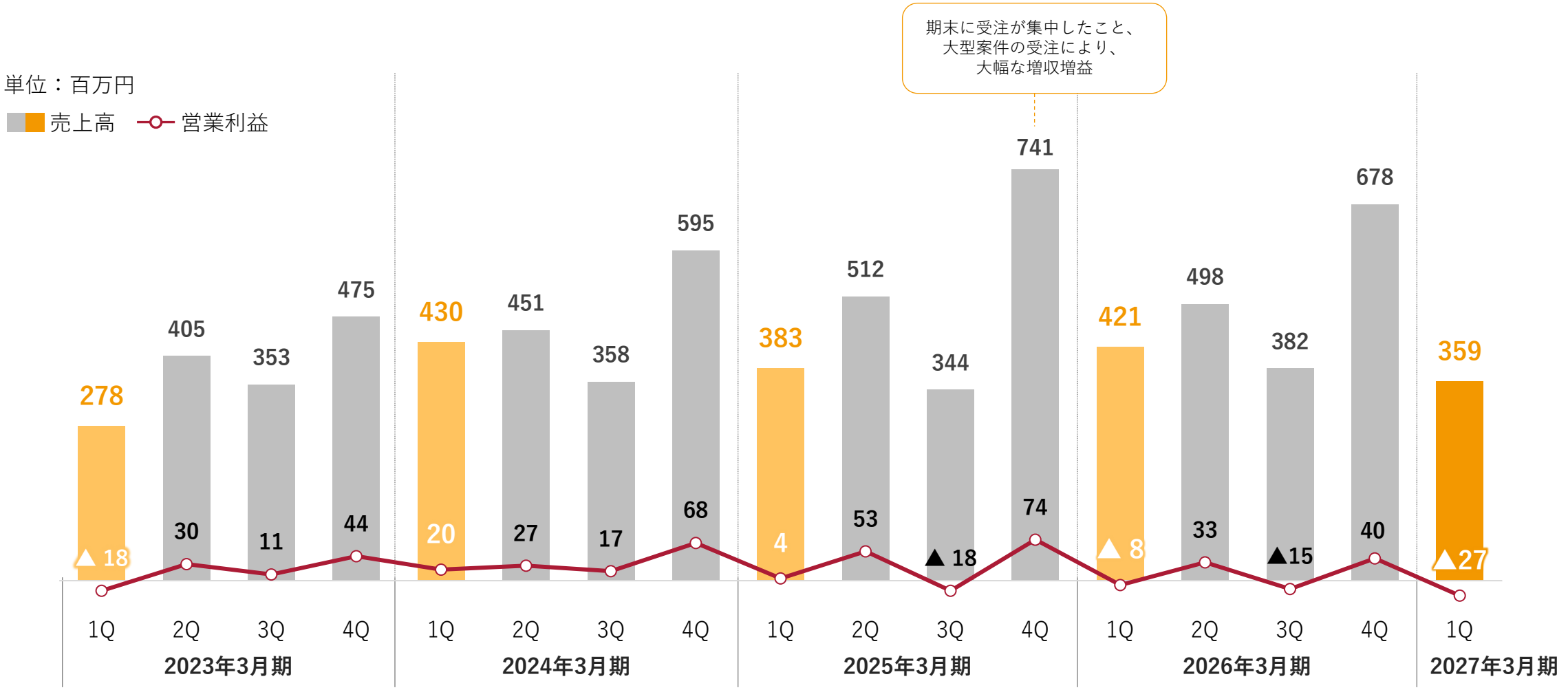
売上総利益率としては改善が見られたものの、売上高の減少による影響が大きく、営業損失を計上

単位：百万円	2026年3月期1Q 実績	2026年3月期1Q 売上比率※1	2027年3月期1Q 実績	2027年3月期1Q 売上比率※1	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
売上高						
外部売上高※2	421	-	359	-	▲14.7%	▲61
内部売上高※3	15	-	10	-	▲31.3%	▲4
計	437	-	370	-	▲15.3%	▲66
売上原価	298	68.2%	235	63.6%	▲21.0%	▲62
売上総利益	139	31.8%	134	36.4%	▲3.1%	▲4
販管費	147	33.8%	162	43.9%	+10.1%	+14
営業利益	▲8	▲1.9%	▲27	▲7.5%	-	▲19

※1 合計の売上高に対する比率
※2 外部顧客への売上高
※3 セグメント間の内部取引高又は振替高

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

分析機器事業と同様に、売上計上タイミングが期末に偏重する季節性があるため、第2四半期以降に復調する見込み



03. 業績・配当予想

2027年3月期

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

中東情勢に関する当社の見解は期初より変更なく、直接的な影響は軽微と認識

	主な影響・リスク
全社	• 当社グループは、中東地域においては直接的な事業拠点や主要な仕入先・販売先を有していないことから、現時点では当社グループの業績に対する直接的な影響は軽微と認識 • 物価高や為替の急変による景気減速、および顧客企業の業績悪化を通じた間接的な影響を及ぼす可能性あり
分析機器事業	• 物流停滞や輸送費高騰を懸念した一部の販売店による先行発注が発生 • ガスクロマトグラフにおける代表的なキャリアガスとしてヘリウムを使用しているため、ヘリウムの価格が高騰した場合には関連する装置の稼働量が低下する可能性あるが、ガスクロマトグラフに関してはヘリウムの代わりに水素や窒素などを使用できる場合もあり、業績への影響は限定的と認識
半導体事業	• 原油価格の高騰がエネルギーコスト上昇を招く可能性があり、特に電力の使用量の多い半導体事業において、コスト増の要因になり得る • ヘリウムは半導体の製造プロセスにおいても非常に重要な役割を担っており、ヘリウムの供給が不足した場合には、半導体事業の受注環境が変化する可能性あり
自動認識事業	• 現状で考えられる影響、リスクは特になし

関連情報：現下の中東情勢による当社グループへの影響に関するお知らせ
https://www.gltechno.co.jp/ir/library/j18euf00000006bi-att/20260428_1.pdf

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

外部環境の不確実性が高い状況を踏まえつつも収益拡大施策を着実に推進。期初時点の方針通り、中期経営計画最終年度に掲げる連結売上高・営業利益の数値目標は据え置き、達成を目指す

単位：百万円	2026年3月期 通期実績	2027年3月期 通期予想※	前期比	
			増減率	増減額
売上高	47,189	50,000	＋6.0%	＋2,810
営業利益	7,111	7,740	＋8.8%	＋628
営業利益率	15.1%	15.5%	-	+0.4pt
経常利益	7,721	7,800	＋1.0%	＋78
親会社株主に帰属する当期純利益	5,358	5,460	＋1.9%	＋101
年間配当（円）	123	126	＋2.4%	+3

※ 想定為替レート：1米ドル＝￥153

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

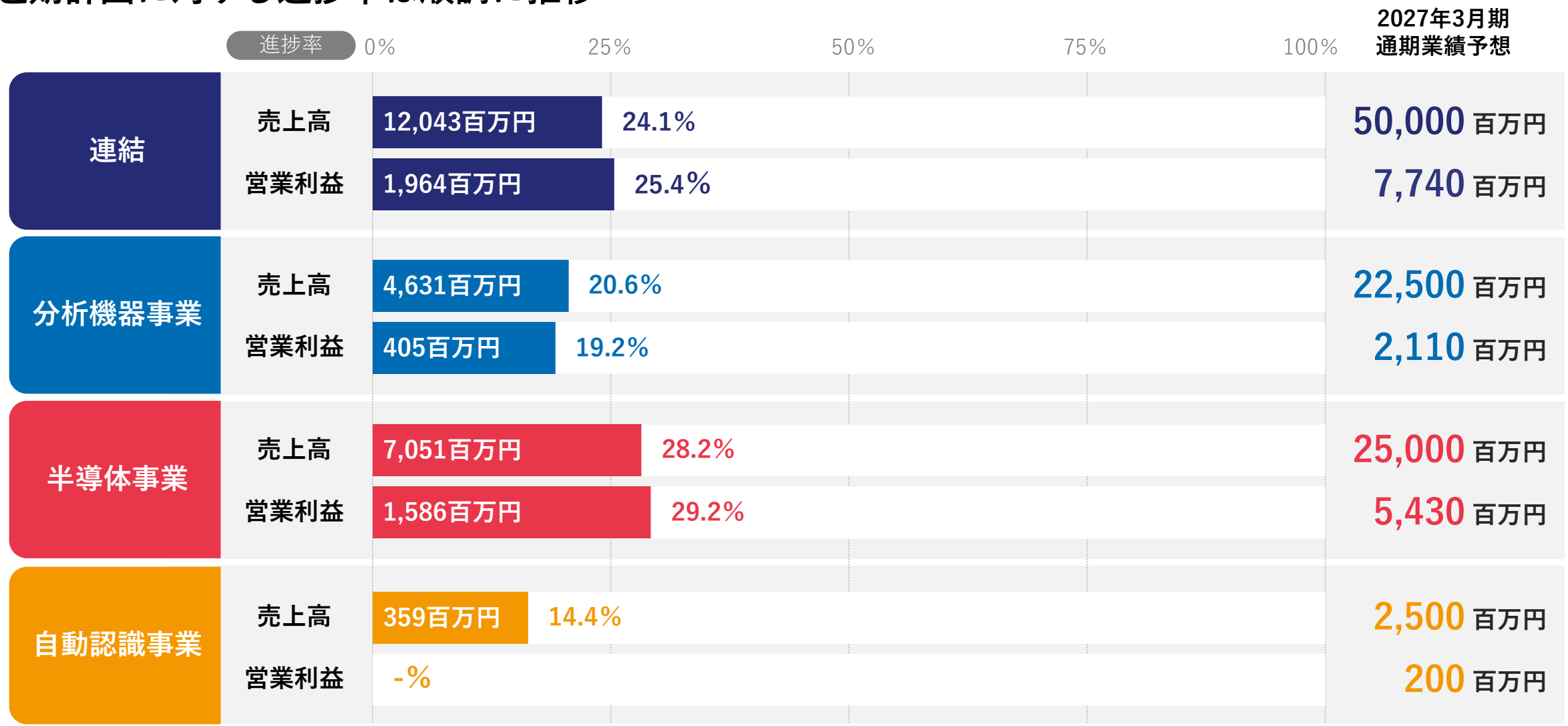
中期経営計画策定時から状況は変化しているが、特に利益面において、通期業績の見通しに係る変動要素が多い状況が続いているため、セグメント別の計画値に関しても期初の方針を継続

単位：百万円

		2026年3月期 通期実績	2027年3月期 通期予想	前期比 増減率	前期比 増減額
分析機器事業	売上高	21,549	22,500	+4.4%	+950
	営業利益	2,345	2,110	▲10.0%	▲235
	営業利益率	10.9%	9.4%	-	▲1.5pt
半導体事業	売上高	23,659	25,000	+5.7%	+1,340
	営業利益	4,686	5,430	+15.9%	+743
	営業利益率	19.8%	21.7%	-	+1.9pt
自動認識事業	売上高	1,980	2,500	+26.3%	+519
	営業利益	50	200	+295.8%	+149
	営業利益率	2.6%	8.0%	-	+5.4pt

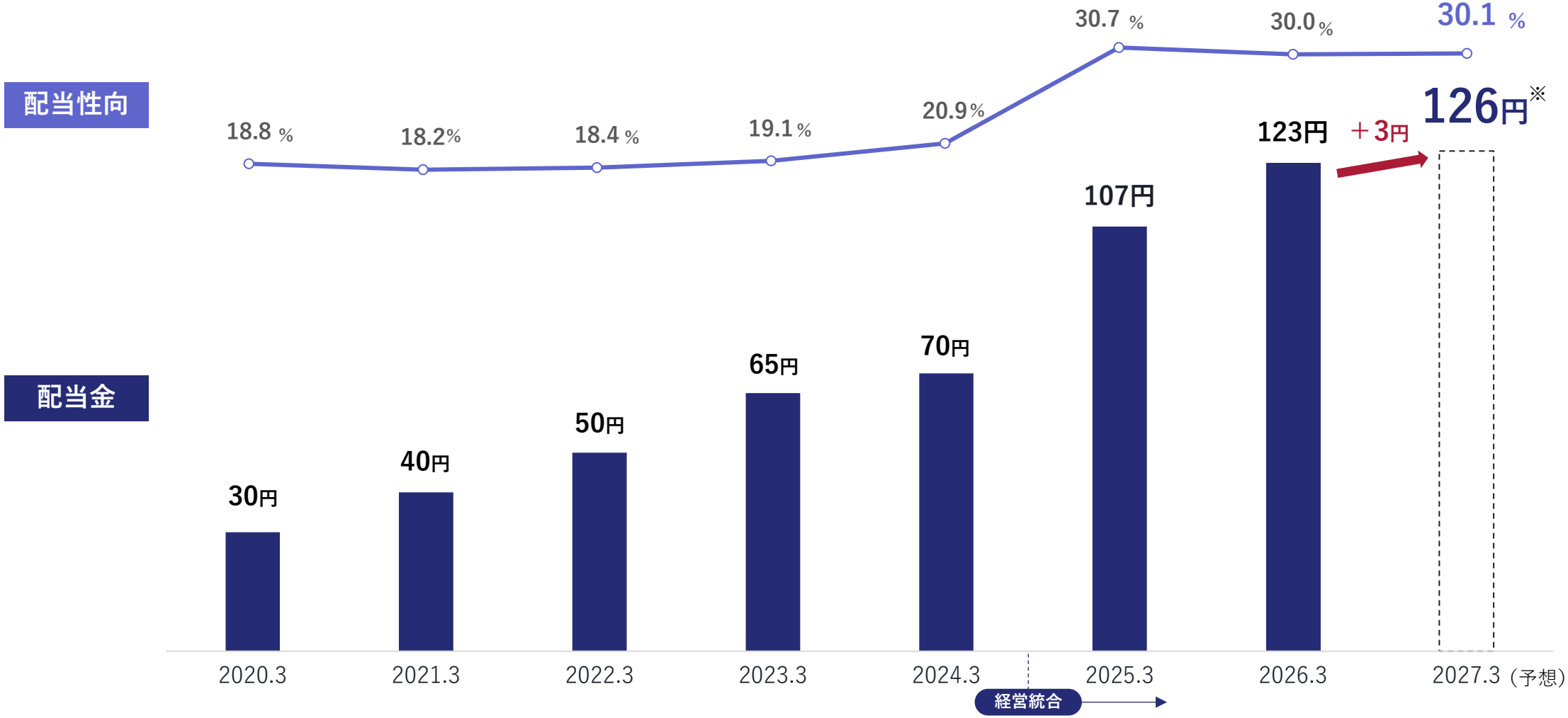
© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

下期偏重などの季節性が無い半導体事業が、市場環境の好調を追い風に連結業績を牽引
通期計画に対する進捗率は順調に推移



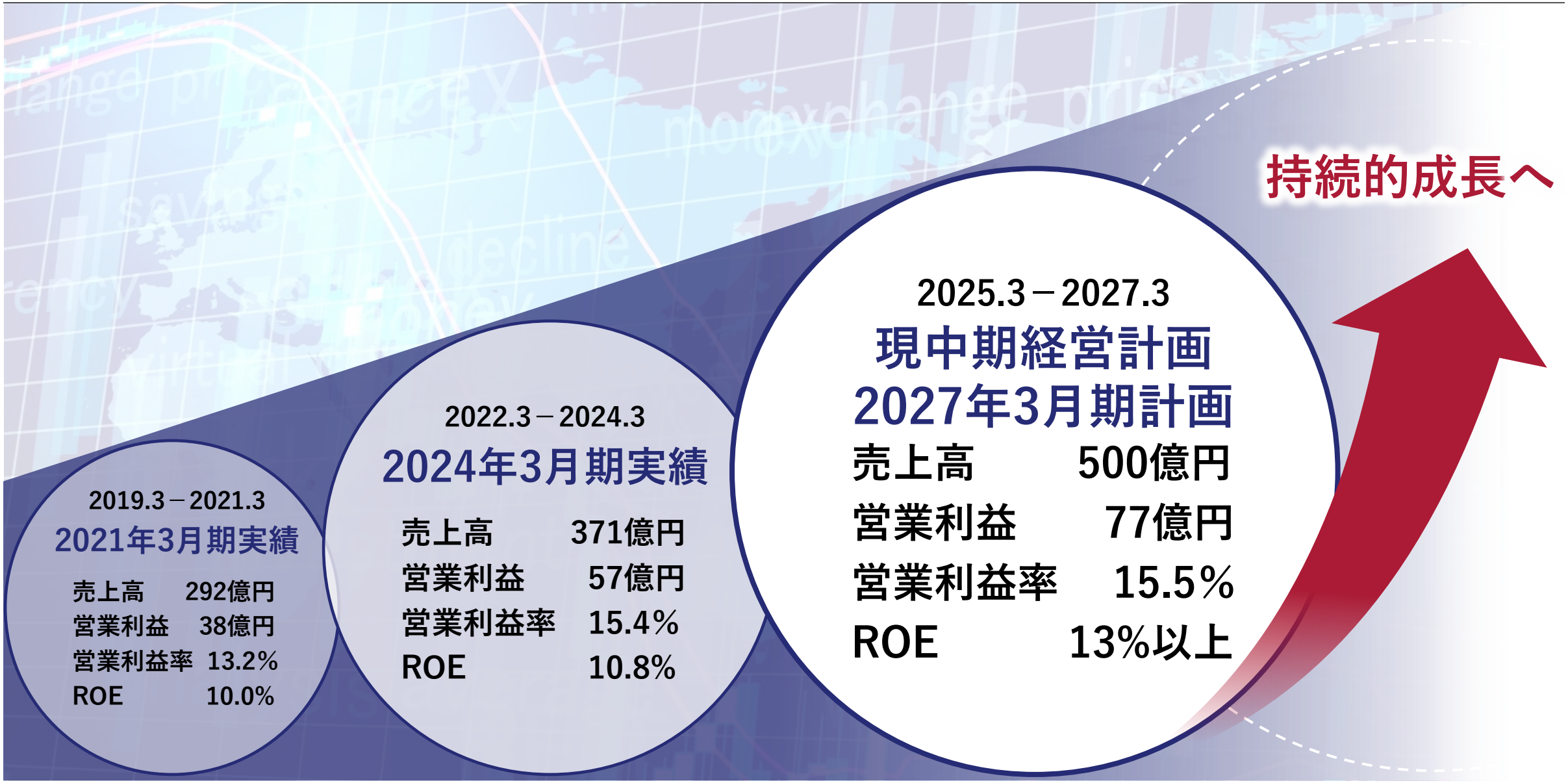
© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

配当予想に変更はなく、2027年3月期は3円増配の126円の見込み。
生産能力増強のための設備投資とのバランスも考え、引き続き配当性向30%を目標に



※ 1株当たりの配当予想は、2027年3月期連結当期純利益予想及び2026年3月末時点の発行済普通株式数(13,025,870株)を基に算定

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.



関連情報：ジーエルテクノホールディングス株式会社 中期経営計画(2025年3月期～2027年3月期)
https://www.gltechno.co.jp/ir/management/c0copc0000000ceo-att/plan2025-2027_all.pdf

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

04. APPENDIX

1968 分析機器事業で創業
ガスクロ工業設立 ※現ジーエルサイエンス

1976 半導体事業へ進出
ガスクロ・ヤマガタ設立※現テクノクオーツ

1990~ 分析機器事業
ジーエルサイエンスへ商号変更・上場

1991~ 半導体事業
テクノクオーツへ商号変更・上場

2013 自動認識事業
ジーエルソリューションズ設立

60年近くにわたり、
時代の変化とともに事業を拡大。

2024 経営統合
ジーエルテクノホールディングス設立

経営統合により
新たな成長ステージへ。

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

経営統合により、グループ内の経営資源をより戦略的に活用可能に。
2024年10月より「ジーエルテクノホールディングス」としてさらなる成長と企業価値向上を推進

GLTECHNO HOLDINGS （2024年10月設立）

経営効率の向上　最適な経営資源配分　意思決定の迅速化

ジーエルサイエンス株式会社

（1968年設立）

分析機器事業

クロマトグラフィーの技術であらゆる分析を支える

分析装置とカラムなど消耗品の企画・開発から販売・サポートまで一貫対応し、多様な産業の成分分析を幅広く支えています。

クロマトグラフィー関連消耗品

ガスクロマトグラフ

試料前処理装置

テクノクオーツ株式会社

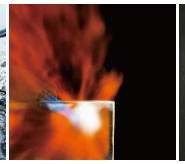
（1976年設立）

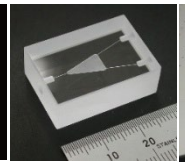
半導体事業

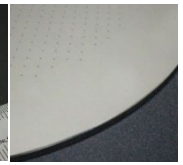
最先端の加工技術で世界の半導体製造を支える

半導体製造装置向け高純度石英ガラスと結晶シリコンパーツの製造販売を主力に、高品質なモノづくりに取り組んでいます。

機械加工


火炎加工


拡散接合


シリコン加工

ジーエルソリューションズ株式会社

（2013年設立）

自動認識事業

非接触IC カード技術でより快適な社会を実現する

非接触でICタグを読み書きする自動認識技術（RFID）のパイオニアとして、先端技術を駆使し情報化社会の進化に貢献しています。

機器組込型リーダライタ

壁付型リーダライタ

鍵管理ボックス

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

既存の枠にとらわれない価値創造に挑戦し、“社会に不可欠な技術と価値”を生み出し続ける

［ミッション］

存在意義

人と社会の可能性を触発する

ジーエルテクノグループは、創業当初より「信頼し合える仲間が集まり、人がこの世に生まれた意義を追求すること」を根本精神としており、組織の成り立ち自体が、人がもつ可能性を触発する挑戦でもあったといえます。 自らの成長のみならず、産業や社会の発展の可能性をも触発する存在でありたい。その思いは今も変わることはありません。私たちは創業の理念を受け継ぎ、その使命に向かって挑戦し続けます。

［ビジョン］

将来目指す理想の姿

枠にとらわれない自由な価値創造に挑戦する

ジーエルテクノグループは、創業より半世紀を超える歩みを重ねてきましたが、
前例や既成の事業領域に縛られることなく、グループを構成する一人ひとりが自身で思考しながら、
新しい価値創造に取り組んでいきます。

［コーポレートメッセージ］

企業メッセージ

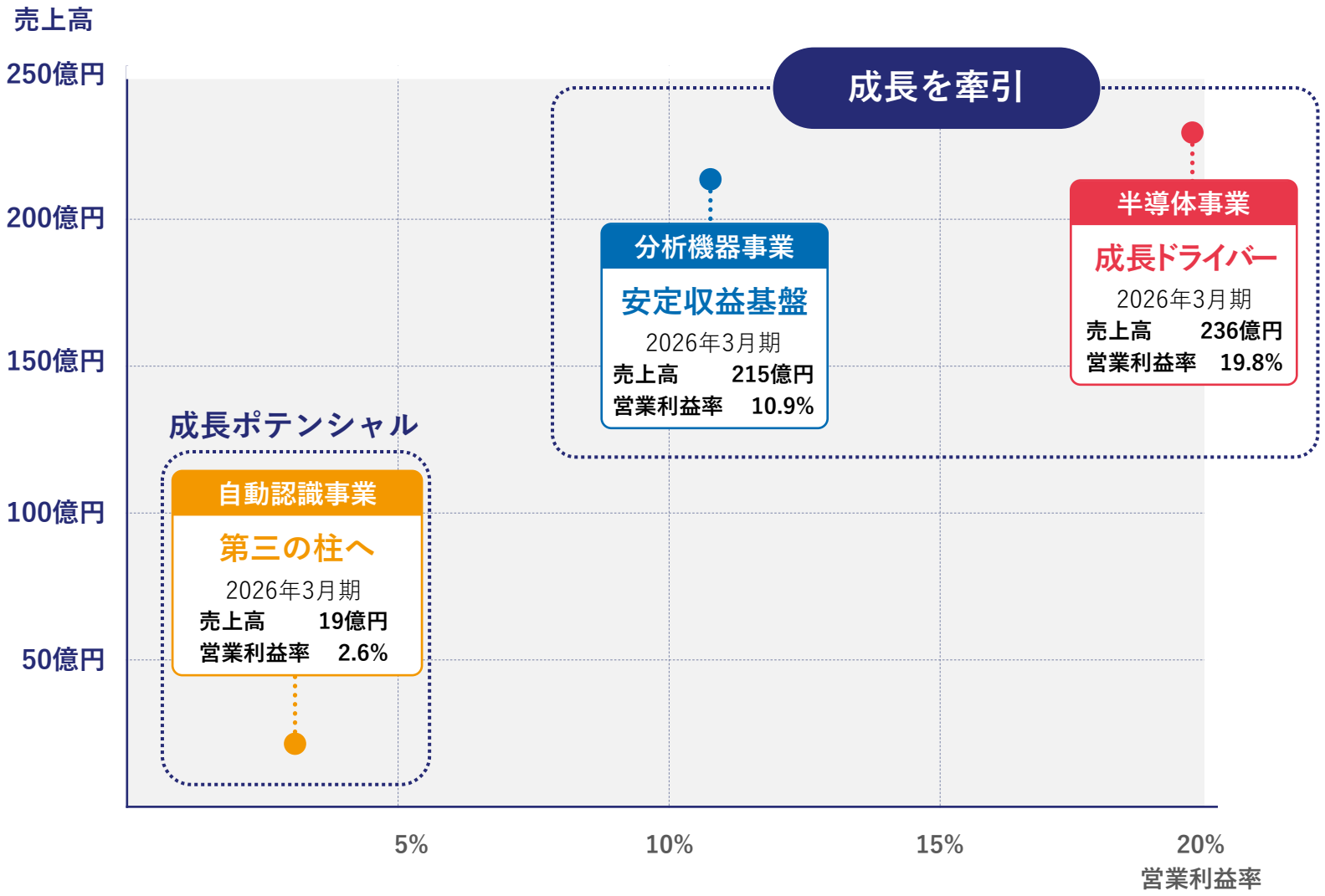
Search for a Way

次のイノベーションのそばに。

お客様のために、社会のために。そして自分たちの成長に向けて、常によりよい手段・手法を探し続けていきます。いつの時代も科学の発展と人々の暮らしを支え、社会に貢献していきます。

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

“安定の分析機器事業”と“成長の半導体事業”のダブルエンジンで着実な収益拡大を目指す



分析機器事業

ジーエルサイエンス株式会社

分析装置や、その装置に欠かせないカラムなど各種消耗品の企画、開発、生産、販売、サポートまでを一貫対応

Point 景気の波に左右されにくく堅実に成長

半導体事業

テクノクオーツ株式会社

半導体製造装置用の高純度石英ガラスと結晶シリコンパーツを主力とした半導体関連製品の製造・販売

Point 半導体製造装置の稼働量と急伸を背景に大きく成長

自動認識事業

ジーエルソリューションズ株式会社

ICタグの情報を非接触で読み書きする「自動認識技術(RFID)」のパイオニア企業として、関連製品を製造・販売

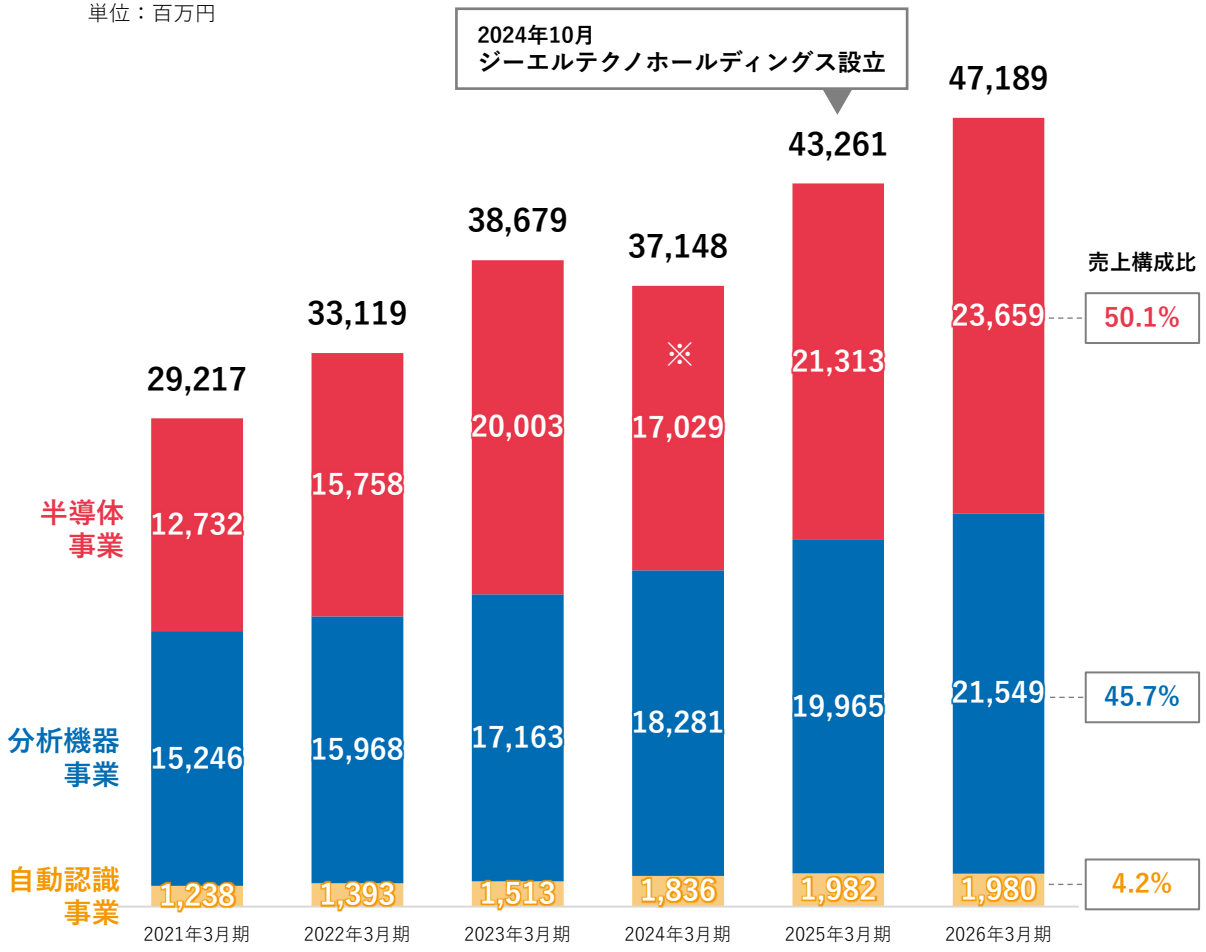
Point IoTが各分野に浸透していく中でニーズが拡大

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

社会を支える３つの事業で実現している堅実な経営基盤と収益性の成長性

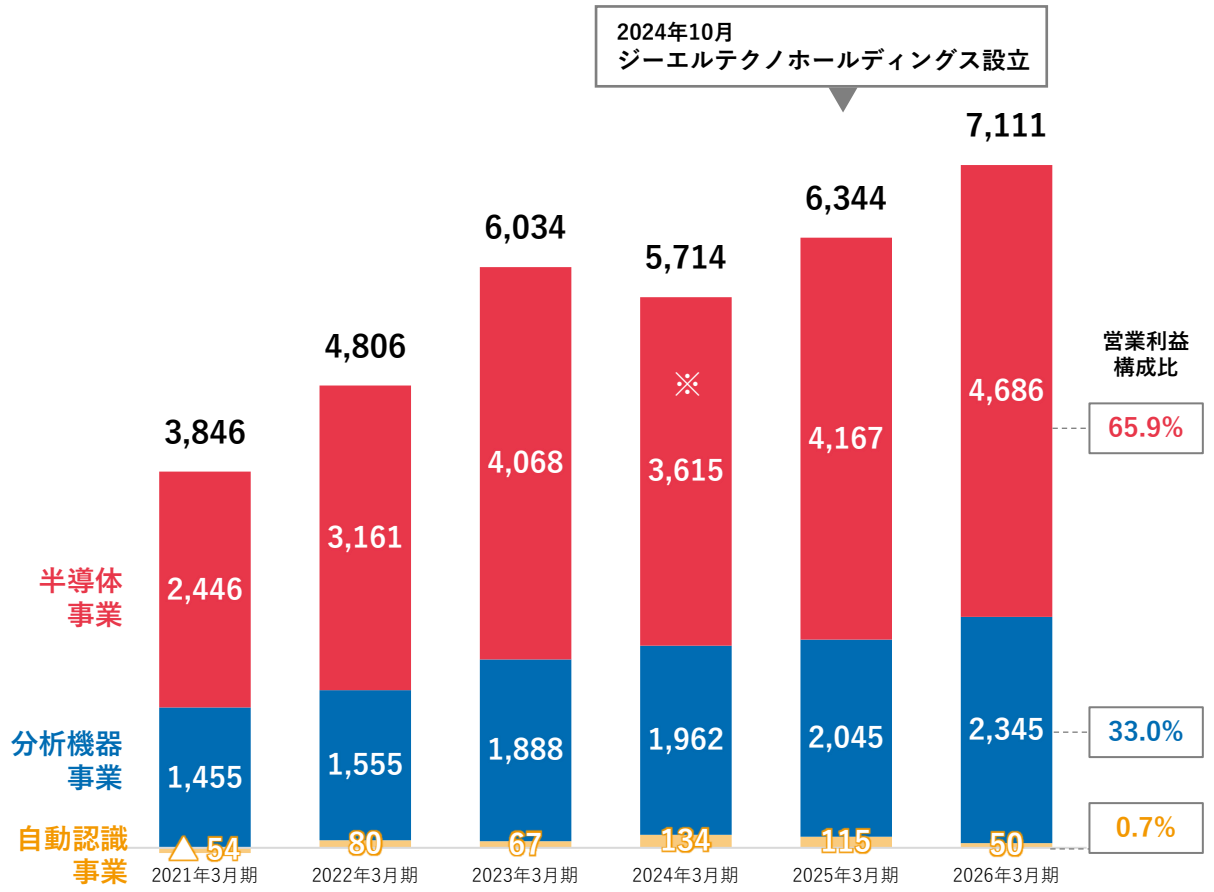
セグメント別【売上高】推移

単位：百万円



セグメント別【営業利益】推移

単位：百万円



※ 2024年3月期 半導体事業売上高は、パソコンやスマートフォン向け需要の減退に伴うメモリ在庫の停滞の影響で減収減益

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

分析機器事業

用語	解説
クロマトグラフィー	混合物に含まれる複数の成分を、それぞれの性質の違いを利用して分離・測定する分析技術。 食品、医薬品、環境、化学など幅広い分野で利用される。
カラム	クロマトグラフィーにおいて、試料中の複数の成分を分離するために使用する管状の部品。 分析精度を左右する重要な消耗品であり、使用状況に応じて交換需要が発生。
ガスクロマトグラフ（GC）	気体(キャリアガス)を用いて試料(分析サンプル)をカラムへ送り、含まれる成分を分離・測定する分析装置。 主に、気化しやすい物質の分析に使用される。
液体クロマトグラフ（LC）	液体を用いて試料をカラムへ送り、成分を分離・測定する分析装置。 主に気化しにくい物質や熱に弱い物質の分析に使用される。
質量分析計	試料中の成分をイオン化し、質量電荷比の違いを利用して、物質の種類や量を高感度に測定する分析装置。 微量成分の特定や定量に優れ、医薬品、食品、環境分析など幅広い分野で使用される。
試料前処理	測定前に試料をろ過、濃縮、精製、抽出などして、分析しやすい状態に整える工程。 測定結果の精度や再現性を左右する、重要な分析工程。
固相抽出	固体の吸着材を利用して、試料中の目的成分の濃縮や、分析を妨げる成分の除去を行う試料前処理法。 分析精度の向上や分析装置や消耗品の保護に役立つ。
固相抽出カートリッジ	固相抽出に用いる吸着剤を充填したカートリッジ型の消耗品。 目的成分の濃縮や分析を妨げる成分の除去を行う前処理用消耗品。
PFAS	ペルフルオロアルキル化合物およびポリフルオロアルキル化合物の略称。 炭素とフッ素を含む化合物。 難分解性、高蓄積性等の性質があるため、国内外で規制やリスク管理が進んでいる。
キャリアガス	ガスクロマトグラフを使用するために必要な、気化した試料をカラムへ運ぶためのガス。 主に、ヘリウム、水素、窒素、アルゴンが使用される。
他社製品	国内外のメーカーから仕入れ、当社が販売する分析装置、周辺機器、消耗品などを指す。 自社製品と組み合わせることで、顧客の分析目的や設備環境に応じた最適かつ幅広い提案が可能。

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

半導体事業

用語	解説
高純度石英ガラス	金属不純物などの含有量が極めて少ない、二酸化ケイ素（SiO_2）を主成分とするガラス。 耐熱性や耐薬品性に優れ、半導体製造装置の部材として使用される。
半導体製造装置	シリコンウェーハ上に回路を形成し、半導体チップを製造するための各種装置。 装置内部では高温環境や腐食ガスに曝されるため、高純度石英ガラス部材が使われる。
半導体用石英ガラス治具	半導体製造工程で、ウェーハを保持・搬送・処理するための石英ガラス製の部材。 高い光透過性や耐熱性が求められる。
機械加工	マシニングセンタなどの精密加工機を駆使し、 研削や穴あけによって石英・シリコンを所定の形状や表面状態に仕上げる工法。
火炎加工	高温の火炎で石英ガラスを軟らかくし、接合、曲げ、成形などを行う加工方法。 複雑な形状の製品には熟練した技術が必要だが、近年では自動化が進んでいる。
インゴット	製品加工前の塊状または棒状の素材。半導体向け部材の主要原材料。
開発品	当社における製品区分のひとつ。顧客の要求や将来用途に向けて試作・評価を行うための製品。 量産採用に至ると継続的な売上につながる。
量産品・リピート品	当社における製品区分のひとつ。顧客との共同開発や試作・評価を経て採用され、契約後に継続して生産・納入する製品。 採用後は同一仕様で繰り返し受注されるため、安定的な売上につながる。
半導体デバイスメーカー	メモリー、ロジック、センサーなどの半導体デバイスを製造するメーカー。 設備投資動向やその稼働量が装置部材需要に影響する。

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

自動認識事業

用語	解説
RFID	Radio Frequency Identificationの略。電波や電磁波を使って、ICカードやICタグに記録された情報を非接触で読み書きする技術。入退室管理や物品管理、在庫管理など利用される。
機器組込製品	当社製品区分のひとつ。 顧客のさまざまな用途の製品に対し、RFID機能を付加する部品として提供する基板形状のリーダライタ製品群。
完成系製品	当社製品区分のひとつ。 ケースに組み込まれそのままシステムとして構成できる状態で出荷されるリーダライタ製品群。
ICタグ	ICチップとアンテナを組み合わせた小型の記録媒体。 商品や物品などに取り付け、識別情報や管理情報を非接触で読み書きするために使用される。
システムソリューション	当社製品区分のひとつ。自社のRFID機器に、各種機器やアプリケーションを組み合わせ、顧客の管理・認証業務を支援するシステムとして提供する製品群。入退室・勤怠管理、鍵管理、化学物質管理などを展開している。
リーダライタ	ICカードやICタグに記録された情報を読み取り、必要に応じて情報を書き込む装置。 RFIDシステムの中心となる機器。
NFC	Near Field Communication（近距離無線通信）の略。スマートフォンやICカードなどを数センチ程度の距離で通信させる非接触技術。決済、本人確認、入退室管理などに使用される。
入退室管理システム	ICカードやスマートフォンなどで利用者を認証し、扉の施錠、解錠や入退室履歴を管理するシステム。 リーダライタ単体だけでなく、管理ソフトや周辺機器を含めた提案機会につながる。
電子パスポートリーダ	電子パスポートに内蔵されたICチップと券面情報から、本人情報や顔画像などを読み取る装置。 本人確認や国際的な身分証明の確認に使用される。
鍵管理ボックス	鍵を保管し、ICカードなどによる認証で貸出・返却を管理する装置。利用者や利用履歴の記録が可能。

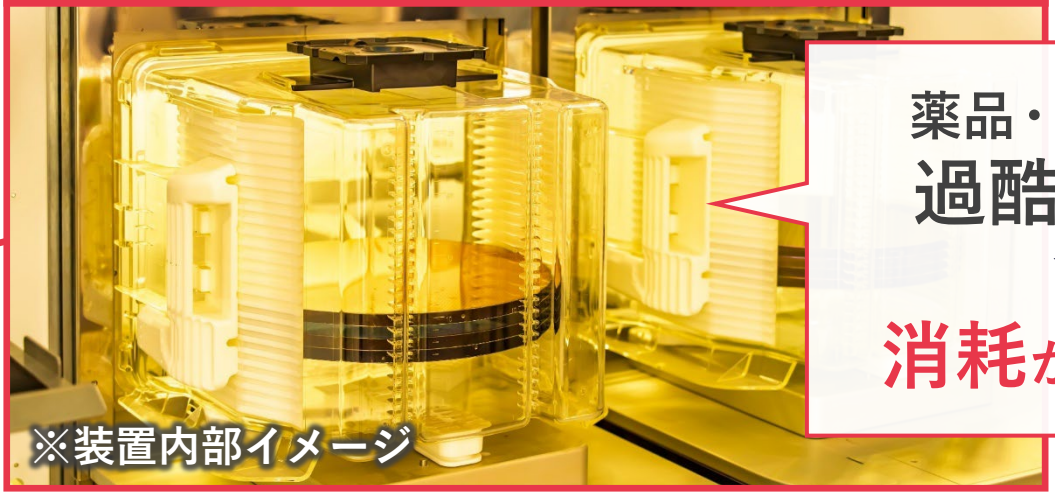
© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

主に「前工程」で使用される消耗品の製造・販売

ウエハ製造 ▶ **酸化・成膜** ▶ 露光 ▶ **エッチング** ▶ 回路形成 ▶ 後工程

半導体製造装置

装置の内部部品



薬品・高温など
過酷な環境
▼
消耗が激しい

売上の約8割が
消耗品のストック型ビジネス

新たな半導体製造プロセスに合わせた開発から始まり、厳しい性能評価と品質要求への対応を経て当社製品が採用された後は、長期にわたる安定的なリピート需要へ

新規開発品

図面・仕様検討 → 価格・納期提示 → サンプル提出 → 契約

半導体の需要動向や設備投資動向に連動したリピート需要、定期的な消耗品交換需要が発生

リピート需要 ▶ 安定収益の積み上げ

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

国内5拠点、海外2拠点の、計7拠点に展開

	テクノクオーツ株式会社				アイシンテック株式会社	杭州泰谷諾石英有限公司	TECHNO QUARTZ VIETNAM CO., LTD.
生産拠点	蔵王工場	蔵王南工場	蔵王西工場	山形工場	アイシンテック	中国	ベトナム
	山形県山形市	山形県山形市	山形県山形市	山形県山形市	福島県喜多方市	浙江省	ニンビン省
従業員数※	152名	110名	6名	13名	45名	282名	ー
敷地面積	22,243㎡	28,858㎡	4,958㎡	5,610㎡	14,720㎡	約16,528㎡	27,475㎡
主要加工方法	火炎加工	機械加工 ※新棟は火炎加工	機械加工	材料加工 ※インゴットの切断	機械加工 ※自動化ライン増設	機械加工 ※一部火炎加工	機械加工

※ 2026年3月末時点

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

装置メーカーが求める厳格な品質基準や、難易度の高い特注品にも対応可能な加工技術が強み

素材に合わせてスピードやパワーを細かく調節し、
幅0.01mmの世界で機械の動きを制御しながら加工に応じたプログラムを設計

素材

機械加工

火炎加工

検査

洗浄

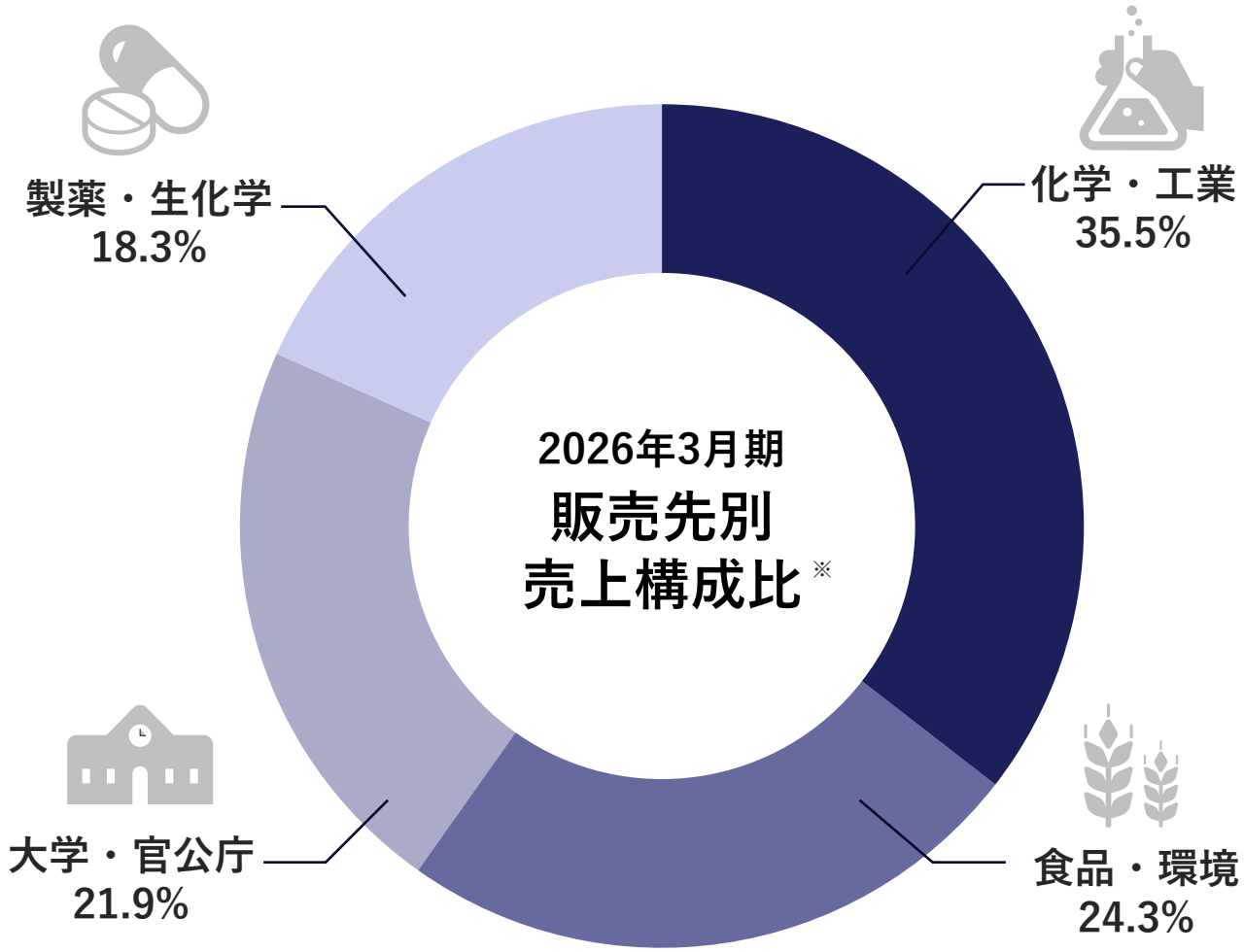
梱包

石英ガラスは耐熱性に優れており、
成形加工に必要な温度は2,000℃ 以上。
長年培ってきた知識と経験で、
精巧な仕上がりを実現

技術・品質が高く評価され、大手半導体装置メーカーから認証を取得

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

当社の安定的成長を支える分析機器事業は、幅広い分野で社会に貢献



多種多様な顧客基盤

※ジーエルサイエンス株式会社単体の日本国内向け販売先別売上構成比

GLTECHNO HOLDINGS

ジーエルテクノホールディングス株式会社
〒163-1130 東京都新宿区西新宿6-22-1
TEL ： 03-4212-6677
URL ： https://www.gltechno.co.jp

免責事項

本資料には、将来に関する業績の見通しを含みますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々なリスクや不確定要素に左右されるため、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。
本資料の著作権は、ジーエルテクノホールディングス株式会社に帰属します。
事前の承諾なしに著作物を使用することはできません。